

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577600244		
法人名	社会福祉法人正清会		
事業所名	グループホーム白松苑		
所在地	山口県山口市阿知須4900番地4		
自己評価作成日	平成24年11月13日	評価結果市町受理日	平成25年7月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年12月4日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三食を、入居者と、職員で、手作りをしている。その人その人で出来る作業を分担して行っている。四季のおはぎや、柏餅なども、手作りしている。個人の趣味である、短歌、ぬりえなども、楽しませている。誕生日には、ケーキを、買いに行き、食材なども買いに行く。食器洗いは、毎日されている。運営推進会議のメンバーの方のご協力もあり、ソーメン流し、を行い、柏餅の葉を取りに行っていた。地域の青空うたごえ広場に参加し、地域の方との交流が出来る。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価結果を基に「地域の人との触れ合いを持つ」という目標を立てられ、地域交流センターの「青空うたごえ広場」に利用者が参加されたり、地域の文化祭に利用者の作品を展示される他、幼稚園児やボランティアの訪問、小中学生の職場体験学習や大学生の実習の受け入れ、散歩やゴミ捨て時に地域の人とあいさつを交わすなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように支援しておられます。野菜づくり、玉ネギの植え付け、芋ほり、花植え、掃除、洗濯物たたみ、生け花など、季節の行事、カラオケなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられます。利用者の好みや苦手なものを把握され、収穫した野菜や新鮮な食材で、三食とも事業所で食事づくりをしておられ、利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じ物を楽しく食べることを大切に、食事を楽しむことのできる支援をされています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方とふれあいをもつ、を理念に掲げて地域活動に参加する事を全職員が共有し、実践している。地区の夏祭り参加	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、月1回のユニット会議で全職員で確認し、共有して、利用者に関わる時に理念を拠り所として取り組み、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あおぞらうたごえ広場に参加し、お茶を飲み、カラオケと一緒に歌い、地域交流が来ている。参加を利用者の方や、地域の方も楽しみにされている。1ヶ月に1回、また逢いましょう！と握手も交わされる。地域の方が、四季の花を持って来てくださる。また、沖の原いきいきサロンの方との交流会がある	月1回、地域交流センターの青空うたごえ広場に参加して、地域の人と交流する他、地域の文化祭に利用者の作品を展示したり、法人の夏祭りに参加して地域の人と交流している。小中学生の職場体験学習や大学生の実習の受け入れ、幼稚園児の訪問、ボランティア(手品、歌、フルーツ、ソーメン流し、しめ縄作り)の来訪、散歩やゴミ捨て時に地域の人と挨拶を交わすなど、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症出張講座の依頼にて、機会があれば、行っていく。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ユニット会議を開き、評価の意義について理解し、3回に分けて全項目について話し合いを行った。項目については、色々な意見もあり、意識統一を図る事も出来た。管理者、主任でまとめを、行った。地域へ出掛けたり、消防による救命講習を、受けている	評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。地域との交流や消防署による救急救命講習を受けるなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告や、防災訓練の報告も行き、外部評価の結果報告もしている。地域交流が、大変良く出来ていると、委員会で報告している。委員会は2か月に1度開催している。	年6回開催し、行事予定、活動報告、外部評価結果、防災訓練について報告し、話し合っている。避難訓練時の通報訓練の確認や救急救命法、AEDの使用についての意見交換をして、サービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括担当者は、2ヶ月に1回運営推進会議に参加していただき、活動報告をして意見をもらっている。	市担当課とは、欲説出向いたり、電話やFAXで相談し助言を得たり、情報交換をしている。地域包括支援センターは運営推進会議に出席する他、相談して助言を得たり、情報交換するなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを、全職員で、話し合い、法人内での、身体拘束について、勉強会に参加して、正しく理解し取り組んでいる。日中は、玄関に鍵は、かけずに、外出を察知したら、一緒に、出掛けている	指針、マニュアルがあり、法人の勉強会に参加し、職員は理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず、外出を察知した場合は、一緒に出かけたり、声かけや気分転換の工夫をしている。スピーチロックについては管理者やユニットリーダーが指導したり、職員間で話し合いをしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での、虐待防止に関する研修会に参加し、防止に努めている。日々の業務の中で注意を払い虐待防止に努めている。スタッフ同士で声をかけあっている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性があれば、話し合いを行っていく。学ぶ機会を持ちたいとスタッフより希望がある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・退去時に説明し、納得を頂いている。利用料金改定等、変更があれば、個人個人に、説明し、理解、納得を得ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、意見などお聞きしたり、電話連絡時又は、運営推進会議時に、要望や意見を運営に、反映させている。運営推進会議において、苦情解決委員の方が、「苦情の受け入れをしています」と、伝えられている。意見箱も設置し、記入の声掛けをしている	運営推進会議、家族懇談会、面会時、事業所だより送付時、電話等で意見や要望を聞いている。家族参加行事の案内についてや利用者の外出時の服装についての意見や要望を運営に反映させている。相談、苦情受付体制、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定め、契約時に家族に周知している。意見箱を設置し、介護相談員の訪問がある。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と職員の面接があり、適宜意見を話し合う機会があり、運営に反映させている	ユニット会議や日常の業務の中で意見や要望を聞いている。職員より利用者の生まれ故郷(周防大島)への訪問についての意見があり、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度があり、職員が向上心を持って働けるよう、職能評価を行っている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加している。研修復命を行い、他の職員にも、共有できている。法人内の研修も参加しユニット会議でも話し合いを行っている。	外部研修は段階にそって、勤務の一環として参加の機会を提供し、受講後は復命し、資料は閲覧できる。法人研修は年間研修計画を作成し、月1回実施している。内部研修は月1回、事故防止、プライバシーなどの勉強会をしている他、日々の業務の中で介護技術や知識など、働きながら学べるように支援している。山口県宅老所・グループホーム協会の研修に参加している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会に参加し、勉強会の機会がある、また他の事業所に、見学訪問の予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前施設や家族から、情報を頂き、本人が早く安心して生活ができる様、対話に努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族と連携を密にし、要望等をお聞きしながら、信頼関係に努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、本人・家族のその時必要なサービスの対応に努めている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人から昔の事など、教えていただく事も多く、昔の知恵を今の生活に活かし、共に生活する立場を築くよう、努めている生活する立場を築くよう、努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とコミュニケーションをとり、行事にも一緒に参加され共に本人を支えていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	青空うたごえ広場にでかけられている。地域に出る事で昔の知り合いの方との、出会いがある、また、新しい関係も出来ている。地域文化祭に作品を出品して、見学に行っている知り合いの方との出会いがある。	行きつけの病院への受診の支援、手紙や電話の支援、家族の協力を得ての行きつけの美容院の利用、外泊、外食、墓参り、法事への参加、旅行、職員と一緒に故郷へ里帰りして親友と再会するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されないように気の合う入居者同士関わられるよう支援している。衣類の乱れや、「こけんようにね」と、声を掛け合ったり、気遣い支え合いの言葉などが見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には、お見舞いに行ったり、併設の特養に、異動されたら、声掛けを行い、本人・家族との関係が、保たれて、会話などできている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や、カンファレンス等で、本人の意向を確認して希望が叶えられるよう支援している。常に本人の、今に、寄り添い、職員間で、情報を共有し、話し合いを行っている	日常の関わりの中で職員の気づき等をケース記録や職員間の連絡帳に記録して共有し、把握に努めている。困難な場合は家族等の情報や本人の視点に立って職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、前サービス提供者からの情報・生活などで、これからの暮らしの把握に努めている。また、本人との会話の中から、把握に努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の過ごし方や、ペースに合わせ、また、心身の変化にも合わせ、その都度その方の今に合ったケアに、努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい暮らしが続けられる様、1ヶ月ごとのモニタリングで見直しを行なっている。必要な関係者と、話し合いを行い、より良い生活のために、介護計画を、作成している	月1回カンファレンスを実施し、本人、家族、主治医等関係者と話し合い、それぞれの意見を参考にして介護計画を作成している。月1回のモニタリング、3ヶ月毎のフェスシートの書き換え、6ヶ月毎の見直しをする他、本人の状態や家族の要望等、変化が生じた場合は、モニタリングに基づいて見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の記入や、職員間の連絡帳の記入により、その都度、情報を共有し、気づき又は、相談事を話すようにしている。日々の様子を個別に記録している。ケアプランの実践や、モニタリングなどに活かしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居室が空いているときは、必要に応じて、ショートステイの利用も、受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の広報誌等で、情報を得て、ふれあい祭りや、青空うたごえ広場などに参加できている。ソーメン流しや、しめ縄作りも、ボランティアの方と行き、日々、四季折々の暮らしを楽しまれている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と連携を密にし、要望等をお聞きしながら、信頼関係に努めている。また、家族の、希望に応じている。日常の様子を観察し、定期的に専門医の回診を受けられ本人の状態により、病院へ受診を、行っている。依頼すれば、歯科の往診もある	協力医療機関をかかりつけ医とする他、利用者や家族が希望する以前からのかかりつけ医の受診の支援をしている。他科については利用者の状態に応じて受診の支援をしている。受診結果を家族に伝達をして職員と共有すると共に、往診や緊急時の対応など、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養の看護職と連携を持ち、急な対応にも協力がとられて、日常の健康管理が出来ている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にサマリーを提供して、支援方法を伝えている。退院時には、病院関係者、本人・家族と連携をとり、話し合っている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を定め、本人、家族・医師と話し合い、方針を共有している	契約時に重度化した場合に事業所ができる対応について、法人施設や医療機関への移設を含めて家族に説明している。重度化した場合は、できるだけ早い段階から本人、家族、かかりつけ医等と話し合い、方針の共有を図り、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	リスクマネジメント委員会があり、年2回の研修に参加、事故報告の検討をしている。ユニット内でも、利用者の状況を把握し全職員で、事故防止に努めている。応急手当や初期対応の訓練は、定期的に出ておらず、引き続き行い実践力を身につける	法人のリスクマネジメント委員会の年2回の研修会に参加し、事故防止について学んでいる。発生した場合は事故報告書に記録し、その日の職員で話し合い、翌朝の申し送り時に検討して、共有し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。救急救命法、AEDの使用訓練、酸素吸入法を各1回受講し、法人の事故防止研修に年3回参加しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内での防災訓練に年2回参加し通報訓練、避難訓練も実施している。地域との協力体制については、自治会の会合に参加し、現在、進行中	法人の昼夜想定防災訓練に年3回参加し、避難訓練、消火訓練、通報訓練に取り組んでいる。事業所独自の風水害の避難訓練を1回と火災の避難訓練、通報訓練を1回実施している。自治会との協力体制について検討中である。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の立場に立ち本人を尊重した対応言葉かけを行っている。トイレの声かけについては、周囲に分かりにくいよう、小さい声で伝えている。入浴は、1人で入りたい方は一人で入られている。全職員でプライバシーに配慮している	法人の接遇や倫理研修で学び、職員は一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について理解して誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。入浴時や排泄時にも一人ひとりを尊重した対応に取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかり易いように話しかけたり、選びやすいように声掛けを工夫している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に合ったペースで1日を過ごしていただけるよう、支援している。その方の生活リズムを大切にしている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪染め、フェイスシェーバーにて顔の手入れの要求の都度、本人のおしゃれ心を大切にしている。外出時にも自由にその人らしいおしゃれができる様、支援している②馴染の呉服店の持ってこられる服を見て好みの服が選ばれている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食とも利用者、職員で作っている。野菜のしごや野菜切り、盛りつけ、その方に出来る事をさせていただき、味付けの話や、今度食べたいものなどお聞きして、提供している。芋掘りを行い、天ぷらや、ふかし芋にし、四季折々の食事を手作りしている。おはぎ、かしわもち、巻き寿司など。	利用者の好みや苦手なものを把握して、収穫した新鮮な野菜を使って、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は下ごしらえ、盛り付け、食器洗いなどを職員と一緒にしている。職員も利用者と同じ物を一緒に食べて、食事が楽しめるように支援している。季節毎の行事食、弁当を作ったの外出、おやつ(おはぎ、たこ焼きなど)づくり、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量の記録をし、甘酒など好きなものを提供している。特養の栄養士にバランスなど献立も相談に乗ってもらっている ②糖尿の方のカロリーや献立の相談をしている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お1人お1人、毎食後にうがいをして頂き、夕食後に義歯をポリドントにて消毒している。自分で出来る方は自分で歯磨きをされる		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その人に合ったタイミングで、誘導が出来る。排泄記録を記入し、その方に合った排泄用品を検討し、トイレでの排泄に向け、全職員が支援している	排泄記録で一人ひとりのパターンや習慣を把握し、声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を記入し、便秘にならない様、バナナ酢の提供や、汁物には繊維のある野菜もたくさん取り入れて、食べ物の工夫を行って、便秘の予防に取り組んでいる		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	楽しんで入浴していただけるよう、無理をせず、仲の良い人を誘って、ゆっくりその人に合った、入浴の支援をしている。希望により、午前中も対応できる	入浴時間は14時から16時30分となっており、希望すれば毎日入浴できる。一人ひとりの希望を聞き、歌を唄ったり、柚子や入浴剤を入れるなど、ゆっくりと入浴を楽しむことのできる支援をしている。入浴したくない人には職員の交代や仲の良い人に誘ってもらったり、声かけの工夫をするなど、個々に応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて、ベットへ誘導し休息してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について、看護師から聞いて理解している。また、症状の変化の確認に努めている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、リハビリ体操を行い、レクリエーションの中で、日付けの確認を行ったり、その日の献立を知らせている。野菜の皮剥きや、野菜切り、食器拭き、新聞の袋折、縫い物、洗濯物たたみ、ゴミ捨て、モップかけなど、その方に合った作業を提供し、積極的に参加されている	野菜づくり、芋掘り、玉ネギの植え付け、草取り、花植え、掃除、洗濯物たたみ、提灯づくり、生け花、餅つき、クリスマスなどの季節の行事、カラオケ、フラダンス見学など活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状態に合わせて、散歩をしたり、気分転換に、買い物、食事など外出している。本人の自宅へ一緒に付き添い、仏前にお参りをされている。四季の花々の見学も行っている	花見(桜、紫陽花、菜の花、コスモスなど)、葡萄狩り、道の駅散策、中学校の運動会、故郷訪問、散歩、買い物など、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	②外出時には、娘さんと、自分で買い物をされている ふれあい祭りの時には一緒に付き添い買い物の支援をしている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、電話で話されている。絵手紙が毎日のように届く方もおられる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に、季節の飾りつけ、ロビーに壁画、各場所には、花を飾り夏祭りどった金魚を、飼って楽しまれている。昼の間があり、ご家族の方と食事を一緒に楽しまれている	玄関にクリスマスツリーや花などを飾り、共用空間は台所、食堂、事務室、洗面台、居室が一行に並んでいる。広い廊下には天窓がついており、壁には染め物のハンカチや利用者の貼り絵の作品が飾ってある。利用者はソファでゆったりとテレビを視たり、テーブルで手作業をして過ごしている。夏は朝顔の緑のカーテン、冬は加湿器などで光や温度調節をして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	②廊下に置いているソファに仲の良い方との会話を楽しまれている。仲の良い人と、お部屋で会話を楽しまれている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前や入居時に説明を行い、本人が使用されていた、馴染のダンスや、使い慣れた寝具類を使用され、安心をされている。ご主人の遺影も置かれている	ダンス、椅子、机、遺影、時計、ぬいぐるみ、人形、本人の作品、カレンダー、観葉植物など、使い慣れた物や好みの物を持ち込んで、本人が居心地よく、安心して過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器やシルバーカーが移動されやすい様、空間を保持し、生活環境を、整えている。安心して移動していただける様、障害物を置かないようにしている		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム白松苑

作成日：平成 25年 6月 28日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	No.35	事故発生時の応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施が出来ていない。	応急手当、初期対応の訓練の実施。	定例会議内で、応急手当や初期対応の勉強会を実施する。	12ヶ月
2	No.36	地域との災害時の協力体制の構築。	地域との災害時の協力体制を構築する。	併設事業所とも併せて地域の会合等に参加する。また、運営推進会議等の場での地域との協力体制を構築していく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。